



さいじょう

2008.2.1発行

第13号

# 市議会だより

発行/西条市議会 編集/市議会だより編集委員会 〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷164 ☎(0897) 52-1261



耐寒マラソン・ヨーイ!

## 12月定例会

平成19年度補正予算(総額3億3,182万4千円)を可決!!

全議員が提案!!「肝炎問題の早期全面解決とウイルス性  
肝炎患者の早期救済を求める意見書」を全会一致で可決!!

### ◇目 次◇

議員提出議案……………	2 P	議案等の審議結果一覧表……………	2 P
質 疑……………	2 P	各会計決算の審査概要……………	6～7 P
一般質問……………	3～6 P	委員の任命・請願ほか……………	8 P

市議会を知るよい機会です。あなたも本会議を傍聴してみませんか!

議会の日程等の詳細については、議会事務局へおたずねください。市議会では、本会議を記録した  
会議録を議会事務局・各図書館・各公民館に配備するほか、議会のホームページで公開しています!

(URL) <http://www.city.saijo.ehime.jp/gikai/>

## 12月定例会の会期日程

4 日	本会議 (提案説明)
5 日～9 日	休 会
10 日	本会議 (質疑・一般質問)
11 日	本会議 (一般質問)
12 日	休 会
13 日	総務委員会・企画建設委員会
14 日	民生産業委員会
15 日～17 日	休 会
18 日	行政改革調査特別委員会・ 臨海地域振興整備特別委員会
19 日～20 日	休 会
21 日	本会議 (討論・表決) 議会運営委員会



# 12月定例会

12月定例会では、各会計決算認定案3件・各会計補正予算案12件・条例案その他の議案12件・人事案件7件・議員提出議案1件の計35件の議案等の審議を行いました。採決の結果、いずれも認定・承認又は原案可決されました。

本会議では、通告に従い、1名から議案質疑が、11名から市政全般についての一般質問が行われました。

その主な内容は、次のとおりです。

## 議案質疑

中山間地域等直接支払制度の事業の概要と成果は？

(無会派)

問 農業生産条件が不利な中山間地域での農業生産の維持や耕作放棄の発生防止、農業の持つ多面的機能の維持・増進、集落機能の活性化などを目的とする本制度は、平成17年度に第二期目がスタートしたが、対象地域や面積の推移、また、事業目的が達成されているのかを問う。

## 答

2期目の初年度は、平成16年の台風災害により大郷集落の対象農地が大きな被害を受けて活動を断念し、7集落でスタートした。その後、17年度に川根・

18年度に古田・19年度に田滝の3集落が新たに集落協定を締結し事業を実施している。

本年度の交付対象地域は、東予地区5集落・丹原地区5集落の計10集落である。対象面積は、188万7千119平方メートルで、17年度の実績面積は148万5千561平方メートル・18年度は167万1千784平方メートルとなっている。

事業内容は、農道や水路の維持管理のための農道への土砂入れ・水路清掃、また、農地の保全や景観形成のための休耕地へのひまわり・コスモスの植え付けや、集落によっては共同でヘリコプターによる病害虫の駆除も行っている。こうしたことから、対象地域では耕作放棄地は発生しておらず、農地の保全に大きな成果を上げている。



保全される中山間地域の景観

## 12月定例会における議案等の審議結果

議案番号	議 案 名	結 果
議案第74号	平成18年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定
議案第75号	平成18年度水道事業会計決算の認定について	"
議案第76号	平成18年度病院事業会計決算の認定について	"
議案第97号	平成19年度一般会計補正予算(第4回)の専決処分について	承 認
議案第98号	平成19年度本谷温泉事業特別会計補正予算(第2回)の専決処分について	"
議案第99号	平成19年度一般会計補正予算(第5回)について	原案可決
議案第100号	平成19年度国民健康保険特別会計補正予算(第2回)について	"
議案第101号	平成19年度老人保健特別会計補正予算(第1回)について	"
議案第102号	平成19年度介護保険特別会計補正予算(第2回)について	"
議案第103号	平成19年度簡易水道事業特別会計補正予算(第2回)について	"
議案第104号	平成19年度公共下水道事業特別会計補正予算(第3回)について	"
議案第105号	平成19年度ひうち地域振興整備事業特別会計補正予算(第1回)について	"
議案第106号	平成19年度小松地域交流事業特別会計補正予算(第2回)について	"
議案第107号	西ひうち緩衝緑地内における自動車損傷事故に伴う和解及び損害賠償の額の決定について	"
議案第108号	新たに生じた土地の確認について	"
議案第109号	字の区域の変更について	"
議案第110号	新居浜・西条地区広域市町村圏事務組合の解散について	"
議案第111号	新居浜・西条地区広域市町村圏事務組合の解散に伴う財産処分について	"
議案第112号	新居浜・西条地区広域行政圏協議会の設置について	"
議案第113号	外国の地方公共団体の機関等に派遣される職員の処遇等に関する条例について	"
議案第114号	長期継続契約を締結することができる契約を定める条例について	"
議案第115号	特別用途地区建築条例について	"
議案第116号	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	"
議案第117号	国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	"
議案第118号	市営住宅設置及び管理条例及び西条市小集落改良住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例について	"
議案第119号	一般会計補正予算(第6回)について	"
議案第120号	老人保健特別会計補正予算(第2回)について	"
報告第8号～9号	交通事故に伴う和解及び損害賠償の額の決定の専決処分について	聴 取

## 議員提出議案

満場一致!!

全議員が提出・可決!!

全議員が提出者・賛成者となつて次の意見書案が提案され、全会一致で可決、国会及び政府関係機関に提出しました。

肝炎炎問題の早期全面解決とウイルス性肝炎患者の早期救済を求める意見書(要旨)

我が国の肝炎ウイルスキャリアは、約350万人と推定され、その多くは、汚染血液による輸血や血液

製剤の投与、集団予防接種時の注射器の使いまわしなどの不適切な医療行為による感染など、医原性によるものとされる。

司法の場では、ウイルス性肝炎の医原性について、国の政策の過ちが明確に認定されており、国は係争中の訴訟を直ちに終了させ、すべてのウイルス性肝炎患者の救済を実現するための諸施策に直ちに取いかかるべきである。

国会並びに政府は、肝炎問題の早期解決とすべての肝炎患者を救済するため、緊急に次の事項を実現するよう強く要請する。

①フィブリノゲン製剤及び血液凝固第Ⅸ因子製剤を納入した全医療

機関に対して患者の追跡調査を指示し、特定された患者に対して投与事実の告知と感染検査の勧奨を指導し、その結果を速やかに公表すること。

②集団予防接種の被害実態調査を行い、適切な対応を取ること。

③ウイルス検診体制の拡充と検査費用の負担軽減を行うこと。

④ウイルス性肝炎の治療体制の整備、とりわけ治療の地域間格差の解消に努めること。

⑤ウイルス性肝炎治療の医療費援助及び治療中の生活支援策を実施すること。

⑥ウイルスキャリアに対する偏見・差別を一掃すること。

## 一般質問

エコ時代を迎えた  
わがまちの公共交通とは？

(自民クラブ)



混雑する主要地方道壬生川新居浜野田線

## 問

今日、地球温暖化が進み、排気ガスが問題となっている。どこへ出かけるにもマイカーを利用しているが、今後、空席の目立つ電車やバスを使ってもらう施策に取り組み考えはないのか。

県都・松山市とのアクセスでも、やはりマイカー利用がほとんどであるが、バスの利用促進のための施策はないのか。

また、定住人口の増加を図る上でも、公共交通の利用促進が必要であるが、フリーゲージトレインの導入のほか、どのような戦略を考えているのか。

## 答

バス利用者は平成19年度が61万2千893人、JR利用者は平成18年度が80万2千810人となっており、毎年1パーセント程度の減少傾向にある。その対策として、バス事業者では利用者増に向けた実態調査を行い、経路・便数・ダイヤの見直しを行っており、JRでも、ダイヤ編成・臨時便の運行や割引切符の発売・マイカーやレンタカーと連携した「車deトレイン」、「パーク&ライド」など、利用者のニーズに合わせた利用増を図っている。市においても愛媛県で実施しているノーマイカー通勤デーを定め、公共交通機関の利用増を図っている。

県都・松山市とのアクセスは、二車線化された高速道路を利用すれば、1時間圏内となっている。国道11号では、桜三里付近の丹原道路の改良や小松バイパスの整備が計画されており、調査や一部整備を実施している。これらが整備されれば、松山との定期バス路線や農産品・花き等の輸送に際しても利便性の向上が期待される。環境に優しい省エネ型の交通機関の整備には、フリーゲージトレインの導入も有効な手段である。平成4年にJR四国が発表した予讃線活性化試案によれば、伊予西条から桜三里をトンネルで抜いて松山までの間に短絡線を建設した場合、西条・松山間について、距離で27.3キロメートル、所要時間で約30分の短縮となる。今後、引き続き国土交通省やJR四国に対し、

国道11号の整備改良やフリーゲージトレインの早期導入を要望するとともに、その効果を最大限に発揮させるような公共交通のあり方を考えたい。

また、定住人口の増加を図る上での交通体系整備については、新市建設等検討委員会では、現在の検討中の基本方針が出来次第、その基本方針に基づき、具体的にバス路線の補助制度やコミュニティバス導入の検討、市内のJR7駅・バス・タクシー・フェリーが連携した公共交通の検討を行い、利便性を高め、定住人口の増加を図るため、総合的な交通体系を模索したい。

## 市窓口でのサービス充実を

(無党派)

## 問

生活環境の変化や共働き世帯の増加、核家族化の進展に伴い、平日は市役所の窓口を利用できない市民が増えている。こうしたなか、土・日曜日における市窓口開庁の取り組みが求められている。また、窓口における市民の相談内容には、プライバシーに関わるものが多いことから、フンストップ対応が可能な体制を整えることなど、市民ニーズに応えた窓口サービスの充実について問う。

さらに、情報収集に支障を来している視覚障害者が、自ら情報の享受ができるよう、福祉部門窓口への活字文書読み上げ装置の設置に向けた考え方を問う。

## 答

戸籍や住民票などの業務を行う市民課(各総合支所では市民福祉課)では、昼休み時間の対応や窓口業務の延長を行っているほか、本庁において郵便請求・電話予約・電子申請などにも取り組んでいる。市民課の業務は、住民登録や印鑑証明など、厳正な取り扱いが求められるものが多いこと、加えて住民基本台帳ネットワークシステムは休日・夜間には稼働していないことなどから、当面は現状のまま平日での運用としたい。

また、税金の収納事務については、市民の利便性と収納率の向上にいかにつなげるかを主眼に取り組むべきであり、コンビニ収納やクレジットカードによる支払いなど、税の支払方法の検討に入っているが、現時点での土・日曜日における収納は考えていない。

市民からの相談に対する福祉部門における窓口対応としては、高齢者や障害者、子ども連れの母親にも配慮した部署の配置を行っており、一つの窓口に来られたかたの相談内容が他の担当にも及ぶ場合には、関係職員がその場に同席することで、総合相談窓口的な機能で対応しており、また、プライバシーへの配慮を要する場合には、相談室での対応も行っている。

活字文書読み上げ装置については、視覚障害者のかたがたが情報不足による不利益を被ってはならないとの思いから、平成20年度において、本庁及び各総合支所の障害者福祉窓口や各福祉センターの

計8か所に設置する方向で検討を行っている。

市民生活に直結した  
水と国民健康保険を問う

(リベラル西条)

## 問1

小松地区における水源については、合併後に明穂地区で調査を実施したが、新水源の誕生には至っていない。今年度は、やすらぎ苑の西側において水源調査を実施しているが、小松地区の水源そのものには限界があり、新たな水源を見出すことは非常に難しいと考えられるため、小松地区内での水源確保から市全体での確保に方向転換をすべきであると思うが、今後の市の取り組みを問う。

## 答

小松地区では、現在、中山川右岸において電気探査による地下水源調査を行っている。調査に基づく資料等の解析は、平成19年12月末を予定しており、調査結果はできる限り早い機会に議会へ報告したいと考えている。

今後、調査中の地下水資源調査の資料も合わせて総合的な検討を行い、地域関係者等との協議を経て、平成20年度以降に水質検査及び揚水量等の調査を行い、水源確保に努めたい。

小松地区の水道水源の確保については、基本的には地域内で確保することを考えている。



**問2** 改正国民健康保険法が成立し、国民年金保険料の滞納者に対して、有効期間が通常1年の国民健康保険被保険者証の代わりに、数か月の効力しかない短期被保険者証を発行することができるようになる。

しかし、窓口での混乱を招くと同時に、国民健康保険税の収納率が低下する要因にもなりかねないことから、発行は見送るべきだと思いが、どう考えているのか。

**答** 国民年金保険制度と国民健康保険制度は、それぞれ別の目的を持って運用されており、国民年金保険料の滞納者に対する国民健康保険制度における罰則となる短期被保険者証の発行は、市民の理解は得られず、制度的にもそぐわないのではないかと認識している。

**周桑病院と教育現場の今後は？**

(自民クラブ)

**問1** 総務省の公立病院改革懇談会がまとめた「公立病院改革ガイドライン(案)」では、国が公立病院を運営する地方自治体に、経営効率化に向けた改革プランを平成20年度内に策定し、具体的な数値目標を設定するよう求められているが、周桑病院での取り組みと今後の見通しを問う。

**答** 周桑病院では、既に深刻な医師不足による診療機能の

大幅な低下及び財政面の危機的な状況を打開するため、「経営改善プロジェクト」を設置し、医師確保施策はもちろんのこと、運営の効率化及び今後の経営形態のあり方についても調査・検討を進めている。「地域において真に必要な公立病院の持続可能な経営を目指し、経営の効率化を図る」という今回のガイドラインの趣旨は、このプロジェクトの目的と合致するものであり、市民の命と健康を守るという観点から、「改革プラン」を平成20年度に策定したいと考えている。

**問2** 文部科学省は、平成20年3月をめぐりに改訂学習指導要領を告示し、早ければ平成23年度の実施に向けて作業を進めている。30年ぶりに授業時間数が増加に転じるが、最も影響を受けるのは学校現場と児童生徒である。現状でも時間に追われ、子どもと向き合う時間を確保できないと悩んでいる先生は多いと聞く。この状況をどうとらえ、どのように取り組むのか。また、全国的に教師の過労死やうつ病を発症する事例の増加が報道され、憂慮すべきことであるが、市内の小中学校の現状とその対応を問う。

**答** 今回の授業時間数増を負擔過重ととらえるのではなく、教師や児童生徒にとって必要かつ妥当なものとする。教育委員会では、国の動行等を踏まえ、「西条

市の教育再興をめざして」の提言を受けて、本年度より、教師の資質向上、小・中学校の連携の強化、豊かな心とたくましさ育てる場の設定などに取り組んでいるところである。

教師の健康状態に関しては、過労死の報告は1件もないが、現在、精神性疾患による休職者が3名いる現状を踏まえ、学校と連携した心の不健康状態にある教職員の早期発見と早期対応、温かい職場づくりや学校の協働体制確立のための指導助言、メンタルヘルスセミナーや相談事業への参加奨励、復職後の継続的なサポートなどを行っている。

**えひめ国体開催に向けての体育施設の維持管理は？**

(リベラル西条)



国体開催を待つひうち球場

**問** えひめ国体の平成29年開催の内々定があり、1次内定で当市は軟式野球大会の開催地と

して、ひうち球場・東予運動公園野球場が候補に上がっているが、その他の競技については、今後どのように対応していくのか。

ひうち球場・東予運動公園野球場は、学童・学生から社会人野球まで、大会開催などに利用率が高く、グラウンドの維持管理については他市・他県のチームからよく賞賛を受ける。しかし、両球場とも築十数年で経年劣化が激しく、特に音響関係・通信関係・バックスクリーン・スコアボードの傷みがひどい。大きな大会の誘致に当たり、報道関係室・大会運営室・救護室・審判室・更衣室・シャワー室などの整備不足を感じ、球場の大きさも一回り大きく欲しいが、国体に向けた今後の改修・改造計画を長期的にどう考えているのか。

**答** 現在、高地トレーニング環境や交通の利便性など地域資源の優位性で、交流人口の拡大と関連産業の振興による地域活性化を図る「合宿都市構想」に取り組んでいるところであるが、この施策の実現のため、高地トレーニング構想・次世代育成支援スポーツ事業等の推進とともに、財政状況等も勘案した計画的な各種施設の整備にも取り組んでいる。

えひめ国体もこの延長線上にとらえており、国体競技会場としてできるだけ多くの種目を誘致したいという姿勢で臨んでいる。また、ひうち球場・東予運動公園野球場は、各々年間50万人程度

の利用があり、高校野球県予選や愛媛マングリンパイレーツの公式戦などに幅広く活用されているが、グラウンドの整備状況に対して、耐用年数等の関係による設備面での一部不都合が指摘されているほか、経年による塗装等の修繕の必要性も認識している。

今後、ひうち球場のスコアボードや放送設備の改修、さらには野球関係者から要望されている拡張も含めて、財政状況も勘案しながら検討し、対応していきたい。

**円山森林公園の**

**現状、そして将来は？**

(無会派)

**問** 円山森林公園は、国から面積36万2千9平方メートルを2億700万円で平成5年に譲り受けたものであるが、園路の整備は進んだものの、当初の森林公園としての整備計画の達成はふじゅうぶんであった。現在の管理状況と今後の当面的な整備について問う。

同公園は、山岳観光の拠点の一つとして位置付けるとともに、園芸等の教育の場としての整備も考えていた。用地取得後14年が経過する中、既に最終的な方向を決めるべき時期に来ていると考えるが、将来計画を問う。

**答** これまで同公園は、周回道路と畑などに使われていた場所の整地等の整備を行ってきた。整地箇所は、これまで花畑として、

平成8年度・13年度にワイルドフラワーやあじさい・芝桜・コスモス・菜の花など合計約2ヘクタールにわたり植え付けを行い、管理を行った。また、平成10年度・11年度には、「森とうちぬぎの会」、「松下グリーンボランテアクラブ」による桜の苗木が植えられ、現在、約160本の桜が育っている。しかし、花畑の土壌が酸性であったことや、雑草の繁茂が著しいことから、現在はあじさい園だけが残っている状況となっている。

平成19年度の現在までの維持管理費は、74万4千853円で、その内訳は、仮設トイレの清掃業務委託料に10万683円、周回道路沿線の除草・桜の下草の除去等に64万4千170円である。しかし、依然、雑草が多いことから、今年度内の職員による草刈り等、環境の保全に努めていきたい。

円山の当面的な整備については、現在のところ、経費を投入して施設整備をする予定はなく、当面は自然を生かしたフィールドとして、現在の形態で維持・管理したい。

また、今後の維持管理については、今の管理費等ではじゅうぶんな対応が難しいこともあり、市民が野菜や花等を植栽して自然に触れ合う市民農園制度や、公園の里親制度についても検討するとともに、市民の協力も得ながら、適切な維持管理を行っていきたい。

将来計画については、かつて学習機能及びレクリエーション機能を併せ持った、四季を通じて楽し

める森林自然公園と位置付け、園芸学校の誘致等の検討を行ったところがあるが、実現には至っていないことから、今後は、行政・大学・地域住民の連携のもと、この自然を生かしたフィールドを可能な限り有効な施設とさせたい。

## どうなる？市職員の定員適正化計画と今後の総合支所機能（自民クラブ）



住民サービスを担う総合支所

### 問

市職員の定員適正化計画では、合併時に1千408人であった職員数を、5年間で100人・7.1パーセント削減することを目指すとしているが、合併後3年経過した職員数及び組織の状況・指定管理者制度の導入による職員の異動状況・職員の新規採用計画について問う。

また、将来の本庁方式を見据えた今後の総合支所機能についての

### 考えを問う。

### 答

合併後の職員数は、平成19年4月1日現在、1千262人であり、合併時点との比較で146人・10.4パーセントの削減となっている。このうち、半数の73人が病院職員である。組織としては、合併時と平成19年度を比較すると、2部を増設したが、7課・36係の削減となっている。

指定管理者制度については、平成19年4月1日現在で14施設に導入されており、そのうち正規職員は3施設に10名が配置されていたが、現在は他部門へ配置転換している。

職員採用に当たっては、定員適正化計画に基づく定数の削減・新たな行政ニーズへの対応・将来にわたる安定的な組織運営・年度間の採用数の均衡化・職員の年齢構成の平準化等に配慮し、計画的に実施している。採用実績としては、平成18年4月1日付けで6名、19年4月1日付けで7名を採用している。

総合支所機能は、管理部門や総務部門を除き、旧団体における従来の行政機能を維持した部署方式である。所管区域における住民サービスの維持・向上を基本とし、主に直接的な住民サービスに関する事務を所管している。現在、組織改編において課・係の統廃合、事務の本庁集約を行い、総合支所の職員数は減少しているが、本庁と総合支所との連携強化により、

一体的かつ広域的な住民サービスの確保に努めている。今後もこのような考え方に立ち、当面的には総合支所方式の定着を図りたい。

### どうなる？

### 駅のバリアフリー化

（日本共産党西条市議団）

### 問

JRの駅を利用する高齢者や障害者などの利便性を向上させるため、エレベーターの設置や段差の解消など、交通弱者に優しい交通バリアフリーを進展させる取り組みや、駅舎の整備改善に関するJR四国との協議状況について問う。

### 答

当市ではこれまで、高齢者や障害者を含むすべての市民が、安心して快適に生活できる都市環境づくりに取り組み、歩道の拡幅や段差の解消、点字ブロックの敷設、公共建築物のバリアフリー化等を実施してきたところである。

特に、これらの施策を総合的・計画的に推進するため、平成6年には「福祉の街づくり整備計画」を策定しているが、この計画ではモデル整備計画地域をJR伊予西条駅を含む91ヘクタールとしており、現在取り組んでいる同駅周辺整備事業でも、こうした思いをもつて取り組んでいる。具体的には、駅前広場の高さを駅舎と同じにして、駅舎前の段差解消を図るほか、車いすの通行に支障とならない道

路の整備や、弱視のかたに配慮した誘導警告ブロックの敷設も行うこととしている。

なお、JR伊予西条駅周辺整備に伴い、平成16年度に組織した「まちづくり事業計画策定委員会」で、JR四国とは駅舎のバリアフリー化については話題にのぼらなかったが、これまでの経緯のなかで、改札口の改善や駅舎・プラットフォームへの点字ブロックの敷設等のほかに、高齢者・障害者に対する人的支援等の配慮をいただいている。

また、JR伊予西条駅へのエレベーター設置については、現施設では構造的に困難とのことであり、一方、JR壬生川駅についても、これまでに出入口等の段差の切り下げ等を実施してきたところであるが、その他のバリアフリー化に向けた両駅に共通した課題については、今後もテーマを掲げて対応していきたいと考えている。



駅舎と駅前広場の段差解消へ



## 河原津干拓地西工区の有効活用を問う (リベラル西条)



活用が期待される河原津干拓地西工区

**問** 河原津干拓地西工区の開発は、地権者の35年の長きにわたる願望と懸案である。旧東予市では、刑事施設の誘致が推進されたが、地元住民の反対運動により、計画は見送られることとなった。現在は、今後の利活用の見通しがつかない状況であるが、将来の計画について問う。

また、河原津干拓地西工区には、さまざまな計画が出てきた。これまでは行政に任せきりであったが、地域住民も参加して積極的を考えなければならぬという気運も出始めている。この問題への取り組みにおける地域住民と行政の協力のあり方について、考えを問う。

**答** この干拓地については、農業的な活用を前提に、農業生産法人以外の一般法人が農業参入できる区域として河原津地区を設定したことから、県内外の一般法人への打診や現地視察も行っているが、具体的な参入には至っていないのが現状である。

干拓地の有効利用は、長年の課題であり、旧東予市時代から地元代表者と行政により設置された干拓地利用促進懇談会で、さまざまな角度から検討を重ねてきた経緯もあるが、具体化はされていない。現在も地権者のかたがたと利用方法について意見交換を行っている。いずれにしても、地権者や地元のかたがたが、自らの課題としていかに真剣にとらえるかが解決の重要なポイントであると考えている。地元の気運の盛り上がりも感じられるので、市としても、今後でもできる支援を行っていきたい。

### 後期高齢者医療制度の影響は？

(日本共産党西条市議団)

**問** 後期高齢者医療制度の保険料と医療費の自己負担は、現状と比較してどうなるのか。

また、高齢者の各医療ごとに保険医療の限度が設定されると言われているが、どうなるのか。

さらに、この制度により、市の国保会計にはどのような影響が予想されるのか。

**答** 国民健康保険税は世帯単位で賦課され、資産割・所得割・均等割・平等割の4要素で算定されるのに対し、後期高齢者医療保険料は個人単位で賦課され、所得割・均等割の2要素で算定する。保険税率は、国保税が、資産割22パーセント・所得割8パーセント・均等割が2万7千円・平等割が2万2千円。後期高齢者医療保険料については、平成20年度・21年度の2か年は所得割7.85パーセント・均等割4万1千659円となる。

現状との比較では、後期高齢者1人世帯の場合は、国保税との比較では総じて負担減になるが、後期高齢者が2人以上の世帯の場合には総じて負担増になる。

具体的には、国保の被保険者で、年金収入だけの1人世帯で240万円の収入の人を例にとると、国保税は年額11万8千600円であるが、後期高齢者医療制度で試算すると、保険料は10万9千950円となり、8千650円の負担減となる。2人世帯の場合では、年金収入が夫260万円・妻80万円の家庭では、国保税が16万1千600円、後期高齢者医療保険料は、夫婦で16万7千300円となり、5千700円の負担増となる。

医療費の自己負担は、現役並みの所得者は3割負担、その他は1割負担で、現状と変わらない。

治療行為ごとの保険医療の限度額設定・支払い方法の関係では、現行は出来高払いになっているが、包括払いにするかどうかは議論中で決定されていない。

国保会計への影響については、これまでの老人保健医療費拠出金は減少するが、新たに後期高齢者支援金の支出が生ずることになり、その差額約6億円の歳出減少が見込まれる。一方、歳入では、6億円の歳出減に伴う国・県支出金が約3億円、また後期高齢者が抜けることによる国保税の減額が約9億円の計12億円が減少し、単純に差し引きすると、約6億円の歳入減少が想定される。

### 決算審査特別委員会の審査から

9月定例会に提案された平成18年度各会計の決算は、決算審査特別委員会に付託され、議会閉会中、現地視察を含め、3日間にわたって審査を行いました。

12月定例会初日に委員会審査の概要が報告され、2名からそれぞれ反対討論がありました。いずれも認定と決しました。

決算審査特別委員会における質疑応答の一部は次のとおりです。

### 一般会計・各特別会計決算

**問** 指定管理者による管理制度に移行後、総合文化会館の費用面での評価と、入場者数・使用料の状況は？

**答** 指定管理に移行後、市民の要望に対し、迅速かつ懇切丁寧な対応になったと好評を得て

いる。平成17年度と18年度の市の負担額を比較すると、大きな縮減効果が見られる。9月以降の入場者数は約1万人余り減少したが、その理由は、指定管理移行期であったことに起因するものであると考えている。文化会館の使用料については、同じ条例・規則に基づいており、直営時との変更はない。



指定管理者制度に移行した総合文化会館

**問** ひょうによる農作物被害対策事業の成果は？

**答** ひょうによる農作物被害対策事業で、田滝青果出荷組合を含む周桑農協管内で、78ヘクタール・277戸に902万4千円を、東予園芸農協管内では、97.2ヘクタール・482戸に674万4千円の補助を実施したことにより、被災した果樹の樹勢回復や病気予防に努め、農家の負担軽減を図ることができた。

**問** 地方バス路線維持対策事業については、補助事業そのものを検討すべき時期が来ており、より効果的で利便性のある「コミュニティバス」等を検討すべきではないのか。



公共機関のあり方を検討

## 答

コミュニティバスやデマンド交通は、地方バス路線とは異なった形で、市民の利便や中心市街地の活性化を図るものである。当市における公共交通機関のあり方については、従来から検討を重ねており、新市建設等検討委員会の意見を踏まえ、今後、検討を重ねていきたい。

※注 コミュニティバス：自治体が住民の交通手段確保のために運行するバス。

デマンド交通：予約制等により需要に応じて交通手段を運行すること。

## 問

救急救命士の配置状況は？

## 答

現在は22名の救急救命士を擁しているが、高規格救急車に救急救命士2名を搭乗させる体制を確立するため、24名の資格者の養成に取り組んでいる。

## 問

公債費比率の状況及び団塊世代の市職員の退職金や合併特例債の償還等に対応する財政運営について問う。

## 答

18年度の当市の公債費比率は14.9であり、県下11市中7位で、県下の平均値15.5よりも良好な状況である。今後、合併特例債等の償還金の増加が予測されるが、元利償還金の70パーセントが交付税措置されることも勘案し、借入額について一定の見通しを立てており、公債費の額は50億円前後で推移すると見込んでいる。依存財源等は減少している状況にあるが、18年度においては、市税をはじめとする自主財源比率が50パーセントを超えており、産業の活性化等から自主財源比率を高めることにより、財政運営は可能だと思っている。また、元利償還金については、実質公債費比率を見ながら、適正な運用を図っていききたい。

## 問

17年度の不用額は予算比で約7.5パーセント、18年度は約5.1パーセントとなっており、不用額自体は減少している。歳出予算は支出の見積り額であり、事業目的を達成できれば、経費は最小に抑えるべきで、不用額は予算執行上の節約の成果とも評価できる。

17年度の不用額は予算比で約7.5パーセント、18年度は約5.1パーセントとなっており、不用額自体は減少している。歳出予算は支出の見積り額であり、事業目的を達成できれば、経費は最小に抑えるべきで、不用額は予算執行上の節約の成果とも評価できる。

## 問

平成18年度介護保険特別会計で、多額な保険料収入未済額が出ている要因とその対応は？

## 答

介護保険料の徴収は、基本的に年金受給者は特別徴収であるが、年額18万円以下の年金受給者は普通徴収となる。こうした人の中には生活に困窮している人もおり、個別訪問を行い、相談しながら徴収を行っている。また、介護保険制度が適用される65歳となったときに、年金から特別徴収するまでの数か月間のタイムラグが生じ、自分では特別徴収されているとの認識のずれから滞納状態となっている人もいる。そのような人に対して個別訪問を行い、事情を説明して徴収に努めている。

## 病院事業会計決算

## 問

医師不足や精神科病床165床の休止という現状の下、今後、黒字経営とするには、患者数などの増加増加すればよいのか。

## 答

必要な医師数の確保が可能であった当時の患者数は延べ約31万人前後であったことから、単純に比較すれば、その基準に戻す必要がある。ただし、医師の確保が大前提であり、それを抜きに基本的には難しいと考えている。

## 問

平成18年度の純損失は約6億9千万円となっている。今までは、交付税措置がなされているが、今後はどうなるのか。また、国の施策によって医師不足が起り、地方の医療が厳しくなっているが、赤字運営に対する国からの特別な措置はあるのか。



地域医療を担う周桑病院の医師

## 答

病院事業を実施しているため、普通交付税及び特別交付税には反映されている。国は、今のところ、医師不足に対する効力のある緊急的な対策を打ち出し

## 委員会行政視察

閉会中、次の委員会の行政視察が実施され、現状をつぶさに視察するとともに調査を行いました。

### 臨海地域振興整備特別委員会

(平成19年11月7日～9日)

- 茨城県大洗港湾事務所
- 大洗港湾計画とフェリー基地について

### 千葉県木更津市

- みなと木更津再生構想について
- 木更津港インナーハーバー再開発計画について

### 水資源調査特別委員会

(平成19年11月12日～14日)

- 福岡県福岡地区水道企業団
- 海水淡水化センターについて
- 熊本県熊本市
- 地下水資源の保全について

### 行政改革調査特別委員会

(平成19年11月20日～22日)

- 滋賀県高島市
- 議員定数について
- 新庁舎建設について
- 岡山県津山市
- 議員定数について



## 各人事案件に同意

次の各種委員の任命について、それぞれ同意しました。

### 教育委員会委員の任命について

高橋 茂徳氏（再任）

### 公平委員会委員の任命について

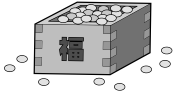
行元 和子氏（再任）

### 固定資産評価審査委員会委員の任命について

高橋 伸行氏（再任）  
明比 義則氏（新任）  
武田 吉雄氏（再任）  
関野 邦夫氏（再任）

### 職員懲戒審査委員会委員の任命について

渡辺 勝司氏（新任）  
青木 五十司氏（再任）  
高田 正敏氏（再任）  
田中 明氏（再任）  
四之宮 孝司氏（再任）



## 請願

12月定例会で審議した請願の審議状況は次のとおりです。

### 【不採択】

・安全・安心の医療と看護の実現を求める請願  
・「後期高齢者医療制度」中止・撤回の意見書採択を求める請願

### 【継続審査】

・最低賃金法の抜本改正を求める請願  
・万全なBSE対策で、食の安全・安心を守るよう求める請願

### 【審議未了】

・トンネルじん肺根絶の抜本的な対策を求める請願

### 市議会議員の補欠選挙

欠員となっていた市議会議員（小松選挙区）に、昨年10月21日に執行された補欠選挙において、堀江幸二氏が当選し、議会の一員となりました。



堀江幸二議員

## 総務委員会委員の補欠選任

補欠選挙で当選した堀江幸二議員を総務委員会委員に選任しました。

### 議席の変更について

12月定例会冒頭において、次のとおり議席を変更しました。

1番	伊藤 元博	2番	西児玉 千春	3番	安坂 雅信	4番	小池 新三郎	5番	伊藤 新平	6番	黒河 新忠	7番	大澤 俊正	8番	越智 幸二	9番	堀江 幸二	10番	岩城 博年	11番	日和佐 紘一郎	12番	黒河 紘一郎	13番	近藤 達也	14番	持主 真知子	15番	楠野 久美	16番	青川 輝久	17番	森川 雅一	18番	藤増 節雄	19番	高田 達夫	20番	青野 正敏	21番	曾我 幸広	22番	曾我 幸広	23番	曾我 幸広	24番	曾我 幸広	25番	曾我 幸広	26番	曾我 幸広	27番	曾我 幸広	28番	曾我 幸広
----	-------	----	--------	----	-------	----	--------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	-----	-------	-----	---------	-----	--------	-----	-------	-----	--------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

### 会議録を公開しています！

市議会だよりは、紙面の都合上、本会議の概要を掲載しており、詳細な審議状況や内容等のすべてをお知らせすることができません。

このため、市議会では、本会議を記録した会議録を議会事務局、各公民館、各図書館に配備するほか、議会のホームページにも公開しております。ぜひご利用ください。

市議会を知るよい機会です  
あなたも本会議を  
傍聴してみませんか！

議会の日程、詳細等については、議会事務局へおたずねください。



## 編集後記

新しい年を迎え、編集委員一同気持ちを引き締め、市民の皆様に親しまれる市議会だよりの編集に取り組んで参ります。

これまで同様、変わらぬご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

寒さもこれからが本番です。皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。

ご意見、ご感想をお寄せください。

### 市議会だより編集委員会

委員長	渡辺 勝司
副委員長	高橋 和寿
委員	小池 新三郎
委員	越智 俊幸
委員	森川 輝久
委員	徳増 雅一
委員	高田 正敏
委員	曾我 幸広
委員	伊藤 孝司
委員	茎田 元近



### 【あて先】

〒793-8601  
西条市明屋敷164  
西条市議会事務局  
☎0897-521261